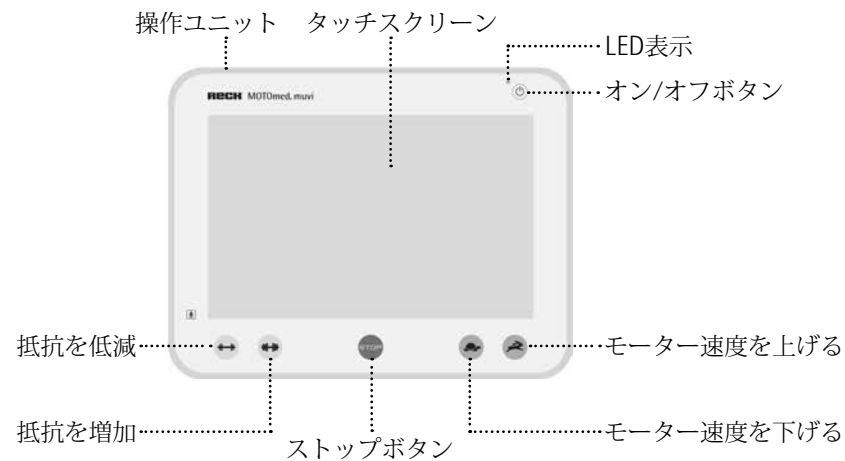
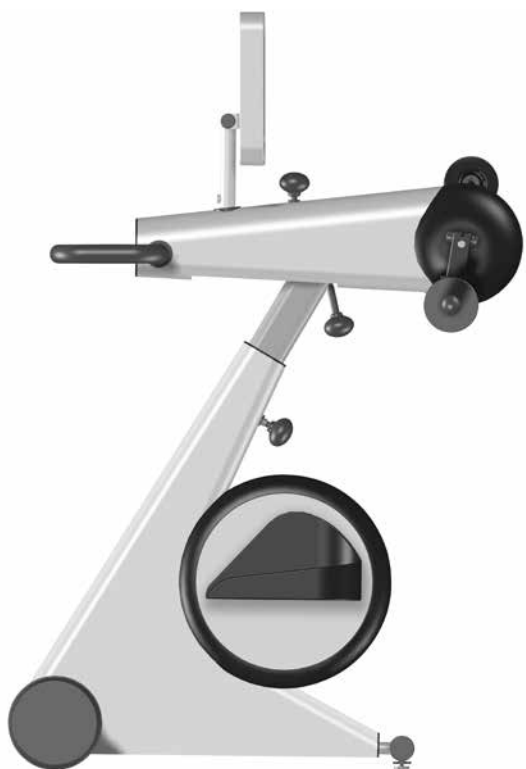
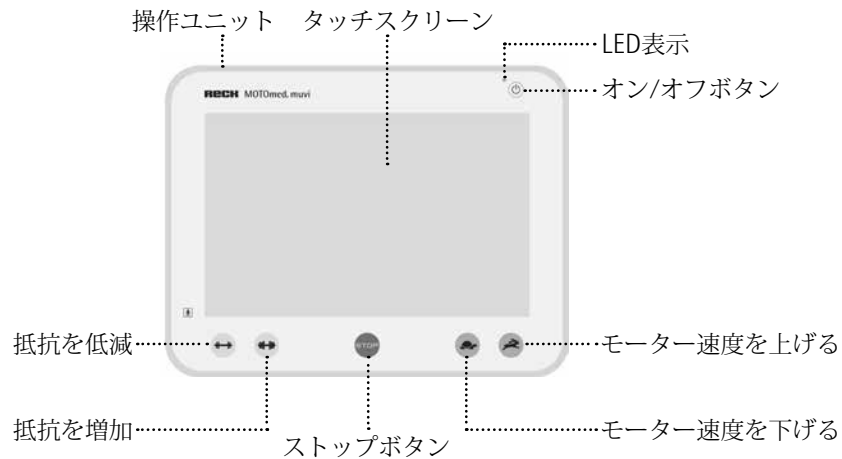


取扱説明書 MOTOmed[®] muvi



RECK



- en Please use the MOTOMed only after you have read the instruction manual.
If you should not understand the language of the present version, please request the instruction manual in your national language.
- de Benutzen Sie das MOTOMed erst, nachdem Sie die Gebrauchsanweisung gelesen haben.
Sollten Sie die vorliegende Sprachversion nicht verstehen, fordern Sie bitte eine Anleitung in Ihrer Landessprache an.
- ja MOTOMed は、取扱説明書を読んでから、ご使用ください。ここにある言語バージョンを理解できない場合、ご自分の言語の説明書を請求してください。
- fr Avant de commencer votre entraînement MOTOMed, veuillez lire les instructions d'utilisation. Si ces instructions d'utilisation ne correspondent pas à votre langue, n'hésitez pas à nous demander une autre traduction.
- es Utilice el MOTOMed sólo después de haber leído las instrucciones de uso.
Si no entiende el idioma de la presente versión, por favor exija un manual en su lengua nacional.
- pt Use o MOTOMed somente, depois de ter lido as instruções de operação.
Em caso que você não compreenda a língua desta instrução, peça por favor uma orientação em sua língua nacional.
- it Per un ottimo funzionamento del MOTOMed leggere le istruzioni per l'uso.
Se riscontrate qualche difficoltà riguardo la vostra lingua madre consultate il vostro servizio assistenza.
- nl Neem uw MOTOMed pas in gebruik nadat u de gebruiksaanwijzing hebt gelezen. Indien de gebruiksaanwijzing niet overeenstemt met uw moedertaal, aarzel dan niet ons te contacteren en een andere taalversie aan te vragen.
- sv Använd MOTOMeden endast, efter du har läst fungerande anvisningen.
Om dig bör inte förstå den tillgängliga språkversionen, förfrågan var god a vägledning i ditt nationella språk.
- da MOTOMed må først anvendes, når brugsanvisningen er gennemlæst.
Forstår du ikke vedlagte brugsanvisning, rekvirer en dansk vejledning hos ProTerapi.
- pl Przed skorzystaniem z urządzenia MOTOMed prosimy zapoznać się z instrukcją obsługi.
Jeśli instrukcja obsługi jest napisana w języku obcym ządajcie Państwo instrukcji w języku przez Państwa znanym.
- ru Используйте MOTOMed только после того, как прочитаете инструкцию по эксплуатации. Если Вам не понятен язык, на котором написана инструкция, запросите, пожалуйста, на родном языке.

美しく、柔らかく、インテンリジェント...

お買い上げありがとうございました！このMOTOmedの購入はとても良い選択です。この運動セラピー装置は最高の性能を提供し、最新のコンピューター技術と共に動く、RECK社の革新的な高品質「Made in Germany」製品です。

MOTOmedはモーターがサポートする運動セラピー装置です。良い効果を出すことのできる、毎日の治療をお楽しみください。

この取り扱い説明書でMOTOmedを良く知ってください。機能と操作を安全に導き、あなたの新しい運動セラピー装置を最も有効に使用するために数多いヒントとアイデアを提供しています。MOTOmedの使用開始前に 第2章にある 予防措置をお読みください。

59ページ ご質問あるいはコメントがございましたら、いつでも資格を持つRECK社のMOTOmedアドバイザーチームにお問い合わせください、喜んでご対応いたします。

MOTOmedで大いに楽しみながら運動をしてください。

5ページ	序文	1
11	安全対策	2
17	目視検査	3
23	使用開始、使用準備、運搬	4
31	操作	5
41	付属品	6
49	トラブルシューティング	7
53	クリーニング、メンテナンス、再使用、リサイクル	8
55	技術データ、サイン	9
59	サービス	10
61	EMC情報	11
65	索引	12


- 6 本取り扱い説明書
- 6 使用目的
- 7 患者ターゲットグループ
- 7 正しい使用法
- 8 免責事項
- 8 治療目標
- 8 兆候(病症)
- 9 禁忌
- 9 臨床的効用
- 9 望ましくない副作用
- 10 重大な事柄


本取り扱い説明書

使用開始前に必ず本取り扱い説明書を注意深く読み、各項目には注意を払ってください。本取り扱い説明書は後日必要になった時のために正しく保管してください。


この取り扱い説明書には危険を識別し、危険を防ぐ安全情報が含まれています。

可能な危険性を三つの警告およびそのシンボルで目立つようにしています。

警告  それ避けられない場合、死亡または(深刻な)身体的傷害をもたらす可能性のある、中程度のリスクの危険を示します。

注意  リスクのレベルが低い危険を示し、これを防げない場合、軽い、あるいは中レベルの身体的傷害あるいは物が破損する可能性があります。
物の破損警告に使うこともできます。

次のシンボルは追加情報あるいは2次情報を示します：

 MOTOmedの操作、あるいは付属部品およびMOTOmedソフトウェアに関する追加情報。

77ページ 他の箇所にある情報、あるいは図の参照(ここでは例えば77ページ)。

使用目的

MOTOmedは座った患者の下肢と上肢を動かす受動的、補助的そして能動的な運動に適しています。使用中に操作ユニットを使いMOTOmedを操作することができます。MOTOmedは持ち運びができるため、色々な場所で使用することができます。

患者ターゲットグループ

MOTOmedは、デバイスを自分で操作できる大人や若者に適しています。症状に応じて、デバイスは術後段階で使用できます。たとえば、脳性麻痺や神経筋疾患などの慢性疾患で、リンパ液の戻りを刺激して筋力と関節の可動性を維持します。

典型的な患者は15歳以上で、身長140～200 cm、体重最大135 kgで、神経疾患のために車椅子に拘束されているか、動きが制限されています。デバイスを独立して操作し、機能および心血管の状態を維持または改善することを目的として、週に数回自宅でトレーニングを行います。

正しい使用法

ここでは、ユーザーは安全な、安定した車椅子、あるいは安定した背の高さが十分にある椅子(車なしの)を運動セラピー装置の前に置いてトレーニングをします。

ユーザーは正しい姿勢で座ったポジションで、車椅子あるいは椅子は後ろに倒れない様にします。

MOTOmedは平らな硬い床の上に置くことが大切です。

製造元が許可した、あるいは明示的に承認した附属品のみ取り付け、あるいは接続することができます。

一般事項

MOTOmedの使用は取扱説明書にある対処および安全注意事項を守ってのみ、そして説明にある、又はセラピー/医者による禁忌が適用されない時のみ可能です。

操作ユニットの操作以外は、ペダルまたはアームクランクが動かず、脚または腕が挿入されていないか固定されていない場合にのみ、調整および変更が可能です。

MOTOmedは、プロフェッショナルな保健医療環境と在宅医療環境に適しています。

免責事項

メーカーおよび販売パートナーは次の場合責任を負いかねます：

- 不適切で誤った使用、目的に添わない使用
- 本取扱説明書を無視した場合
- 意図的に損害を与えるまたは重度の過失
- 集中トレーニング、たとえば競技スポーツに使用
- 不適切な車椅子あるいは椅子を使用
- 担当専門医あるいはセラピストの指定するアプリケーションに反する使用
- 許可されていない付属部品を取り付ける
- MOTomedにメーカーによって承認されていない人による修理あるいは変行を行った場合
- メーカーから配送された物以外の電源ケーブルをMOTomedの運転に使用

治療目標

主に次の兆候における、運動欠如または運動不足による(その結果としての)損傷の回避、軽減、改善:

兆候(病症)

- 足(腕)の動きの大幅な機能ロスを伴う(痙攣性)麻痺症状あるいは神経筋肉性の病気(たとえば脳卒中、多発性硬化症、対麻痺、ポリオ後症候群、パーキンソン病、外傷性脳損傷、幼児脳性麻痺、脳性麻痺、脊髄二分脊椎)
- リウマチ、変形性関節症、膝/股関節置換、カプセル靭帯損傷後の状態などの整形外科の愁訴
- 心臓血管および代謝疾患(例えば、動脈硬化、2型真性糖尿病、高血圧、PAOD、骨粗鬆症)
- セラピー措置の補足、たとえば透析患者では、慢性閉塞性気管支炎および全体体力が非常に低い患者
- 足あるいは臓器の血液循環の欠陥
- その他の動きに制限のある、あるいは寝たきりにつながる他の病状

禁忌

試験研究から1名の被験者を除外した以外、臨床評価の枠内では発生しなかった。

運動療法の分野における長年の経験から、リスク分析の一環として、次の症状がある場合、トレーニングセッションの開始前に医師やセラピストと相談しなければなりません。

新しい関節損傷、関節置換/義肢の新しい取り付け、新生十字靭帯断裂、新鮮な膝および臀部TEP、重度の膝および股関節変形性関節症、関節の硬化、極端な筋肉の短縮、股関節および肩の脱臼のリスク(例えば、亜脱臼肩)、急性血栓症、褥瘡および非常に重症の骨粗鬆症。

臨床的効用

患者にとってのMOTOmedデバイスの効用は、科学的に評価され、経験的に証明されています。

望ましくない副作用

MOTOmed運動療法装置を使用したトレーニングにより、**望ましくない副作用**は発生しているか、既知ではありません。

その他のリスク

MOTOmedの運動療法装置の原則は、アームあるいは脚トレイナーのクランクを定義された力で駆動する電気モータの機能に基づいています。電気および機能の安全性は、すべての安全指示を守れば、広範囲にわたる措置により、MOTOmedの残りのリスクは最小限であることを、メーカーは保証します。

ただし、回転するクランクは、不注意や安全指示に従わない、あるいはMOTOmedを誤用した場合に怪我をする可能性がありますから必ず注意してください。

安全指示を実行に移せない、または危険な状況を認識して回避することができないユーザーの場合、訓練は資格のある監督下でのみ行うことができます。

重大な事柄

規制(EU) 2017/745に基づく注記:

製品に関連して直接的または間接的に重大なインシデントが発生した、あるいはその可能性がある場合(たとえば、ユーザー/患者の健康の一時的または永続的な深刻な悪化)、直ちに製造元 (vigilance@motomed.com)およびにユーザーと/または患者の国の管轄官庁に報告する必要があります。

注意



11ページ

MOTOmedの使用時には必ず第2章にある注意事項を守ってください。

一般事項

MOTOmedのトレーニングを各自の病状に合わせて調整します。メーカーまたはその販売パートナーによるトレーニングのヒントには拘束力はありません。MOTOmedをどのように様々な病気で使用するかは、正確に指定することはできません。可能な設定が年齢、身長、個人の状態、術後でどの位の負荷に耐えられるか、そして一般的な身体状態に依存するため、トレーニング機能詳細についても同様です。

MOTOmedで初めての操作をする場合は常に、専門の担当者の指示と監督の下で実行してください。初回トレーニングの前に、医師およびセラピストと、トレーニングの性質、程度、強度およびタイミングについて話し合ってください。デバイスを起動するときは、MOTOmedの選択したトレーニングプログラムのプリセットにも注意してください。

ユーザーがMOTOmedの機能と操作を理解していること、トレーニング中にMOTOmedの操作ユニットに自分で到達し、操作、スイッチオフすることができること(特に前腕シェルを使った腕/上半身の訓練の場合)を確認してください。

それ以外の場合は、監督なしで訓練したり、足や腕を出したり入れたりしないでください。この場合、常に監督として別の人が不可欠です。

許可されていない人(訪問者、ヘルパーなど)はトレーニングの間に車椅子、椅子あるいはMOTOmedに変更を加えることは許されません。装置のスタート後、ユーザーの健康状態により、最高回転数20回転/分が無理な場合、回転数を減らしてください。

ハンドルあるいは脚ガイドのフットシェルあるいはふくらはぎシェルは通常傷のない皮膚であれば接触できます。

固定用バンドを使う場合、靴下および/あるいは靴、長いパンツなどの衣服を着用してください。これにより、皮膚とフットシェルまたは固定用バンドとの直接接触を回避して、圧迫、皮膚刺激または擦り傷を防止します。

病状により、脚の位置、脚ガイドの調整により、擦り傷、圧傷または他の怪我の恐れがある場合、訓練はお勧めしません。但し、ユーザーが医者およびセラピストと話し合い 予防措置(緩衝物等を取り付けるなど)をとった場合は別です。

特に、治療装置と接触している身体部分に開いた傷あるいは褥瘡の危険がある場合(たとえば敏感な組織または皮膚の状態に起因する場合) MOTMedトレーニングは、医師およびセラピストと話し合った後のみ、または自己責任において可能です。メーカーはこの説明書に注意を払わないために起こった負傷に対し責任はおりません。

アルコール、ドラッグ、薬の使用の影響を受けて、健康リスクが増加する可能性があります。この場合、MOTMedの使用はお勧めしません。

痛み、吐き気、循環器系の衰弱などの場合は、すぐに訓練を中止し、医師に相談してください。メーカーまたは販売代理店は、ユーザーによる間違った使用または過度の使用には一切責任を負いません。座った状態でのみ、脚を安全フットシェルに入れてください。立った状態で、全体重をかけてフットシェルに踏み込まないでください。1ペダルにつき25キロ以上(ペダル半径7cmの位置)の負担をかけないこと。

1方の脚あるいは腕、あるいは四肢の体重の差が大きい場合などの片側訓練は、最初は看護師のいる場でのみ行われます。片側の訓練は、ブレーキ抵抗の設定値を高くするか、メーカーが提供する対抗重りを使用して行ってください。

腕/上半身トレーニング

個別の腕/上半身トレーニングの場合は、安全フットシェルから足を取り外し、床や車椅子の足置きに置きます。

脚と腕/上半身のトレーニングを同時に行う場合は、腕トレーナーを少なくともハンドクランクの最低位置で、膝が一番高い位置にあるときに膝に衝突しない位置に設定します。

上肢の運動量測定に関する注意事項：

子供の場合、骨の安定性は依然として比較的強く、容易に骨折または俗にいう隆起骨折(不完全骨折)に至ることがあります。このような怪我のリスクを減らすために、上肢の運動量測定の際に手首がしっかりと支えられていることを確認してください。

あなたの診療所が推奨する手、手首および腕の調整装置が常に使用されていることを確認してください。

また、同様に、子供が運動トレーナーに対して正面に目を向けて座り前腕と手首の回転を避けることを確認してください。

正しいMOTOmedの接続がわからない場合、あるいは質問がある場合、当社のサービスセンターの担当者にお問い合わせください。

59ページ

安全および技術情報

MOTOmedは高度に専門化された運動療法装置であり、高パフォーマンススポーツでの使用および診断のために設計されていません。従って、そのためには医療的に認証され較正されている運動量測定器またはトレッドミルを推奨します。

適用に関して特定の知識はありません。ディスプレイを読んで操作することは、安全に操作するための前提条件です。

MOTOmedの使用には、製品固有の、例えばトレーニングなどによる知識は必要ありません。

表示された測定値は、トレンド表示またはユーザーへの心理的フィードバックにのみ使用します。

MOTOmedは医療用電気機器であるため、EMCに関する特別な予防措置が適用されます。設置および初運転中には、EMC情報を遵守しなげに注意を払ってください。

61ページ

子供は監督者なしでMOTOmedを使うことはできません。

動物の負傷を防ぐために、動物をMOTOmedに近づけさせないでください。

特定の電動車椅子、立ち車椅子、スポーツ車椅子など前構造が大きい
か、折りたたみ式でないあるいは取り外しができないフットレストが
付いている場合は適していません。

MOTOmedがオンの時にのみトレーニングをしてください。
MOTOmedを立てて使用しないでください。

運動中、あるいは脚や腕が固定されている間は、MOTOmedの位置を
変更しないでください。

注意



装置が倒れて怪我をする危険

取っ手はトレーニング中に手で握るためにのみ取り付けられています。

MOTOmedに横からの負荷をかけないこと。取っ手あるいは腕トレーナーに部分的または全体重で(たとえば体を支えたり取っ手を握って引っ張り上げるなど)負荷を掛けないでください。

注意



回転するペダルクランクおよび動いている部分による負傷の危険

ペダルクランクが回転している間は、MOTOmedの機械調整(ペダル半径、取っ手あるいはアーム/上体のトレーナーなどの高さ調整など)を行わないでください。

操作ユニットのボタンを操作するときも、回転ペダルクランクに注意してください。

動いている部分を絶対に掴まないこと！



ペダル半径を変更する場合、力のバランスが変わる可能性があります。



赤いストップボタンでも、オン/オフボタンでもMOTOmedをオフにできない場合は、直ちに速度を1回転/分に下げてトレーニングを終了するか、または電源ケーブルをソケットから外します。エラーが修正されて初めて、再度トレーニングを開始することができます。



たとえば携帯電話やアマチュア無線といったポータブルおよびモバイルRF通信デバイスは、MOTOmed機能に影響を与える可能性があります。その様なデバイスは、横にあるシンボルの表示があり、識別できます。

注意



ハウジング部分の過熱の危険

長く直射日光に当てると、ハウジングの一部が過熱する可能性がありますので、MOTOmedを適切な場所に配置してください。



操作ユニットのハウジングの表面温度は、電子機器の放熱のため周囲温度よりも13°C高くなります。したがって、直射日光に当たらなくても許容可能な操作ユニットのボタンにおける周囲温度は(40°C)53°Cにまでなります。この温度に短く接触をただけで損傷を引き起こす可能性があるため、ユーザーは保護のために適切な措置をとる必要があります。

注意



モーターおよびエレクトロニクススの破損の危険

受動的に設定された回転動作を積極的に対抗して押さないでください。

警告



感電の危険

MOTOmedを絶対に側面カバーを取り外した状態で使用しないこと。
絶対にハウジングを開いたり、金属物をMOTOmedに挿入しないこと。

適切な専門訓練を受けた人のみがMOTOmedを開くことができません。MOTOmedを開く前に必ず電源プラグを抜いてください！

MOTOmedは絶対に濡れた、あるいは湿った環境で使用しないこと。
MOTOmedは水またはスチームに接触させないこと。

MOTOmedに何らかの物質や液体が入った場合は、資格のある人にチェックさせてから使用してください。

駆動部分にオイルが絶対入らない様に注意してください。

メンテナンスは必ず訓練および知識、経験によりメンテナンスを評価できる、影響や危険の可能性を識別できる専門家の指導そして監視下で行うこと。

MOTOmedはメーカーの許可なしに変更を加えることはできません。

追加取付、変更には純正パーツと純正アクセサリのみを使用することができます。

商業施設では電気設備および機器類の同業者協会の事故防止規則を守ってください。

警告



包装材料による負傷の危険

梱包材を不注意に置きっぱなしにしないこと。プラスチックフィルム、ビニール袋、発泡スチロール部品などは子供にとって危険なおもちゃになることがあります。

MOTOmedを第三者に引き渡す場合、本取扱説明書を一緒に添えてください。

目視検査

トレーニング開始前のMOTOmedの目視検査の説明

あなたのMOTOmedは高品質の医療機器であり、医療機器に適用される特に高度の安全基準に従って高い品質スタンダードで設計され、製造されています。法的要件に従い、医療機器のメーカーは、次のページに記載されている多数の安全指示をユーザに出さなければなりません。

指示が沢山あるということは、MOTOmedを使用する場合、日常生活で使用される他のデバイスより高いリスクが存在するという事実に起因するものではありません。むしろ、ほとんどの指示は、医療機器に有効な非常に厳格な規制要件を遵守し、ユーザと患者の安全を確保するための結果であり、当社はお客様のために誠実にこれに従い実行したためです。

いろいろな指示が言う迄もないように見えても、次のページを慎重に読み、その指示に従うようにしていただくことにより、お使いのMOTOmedが長期にわたって最高レベルの信頼できる援助装置であり、あり続けるためです。

訓練を開始する前に目視検査を行い装置が適切な状態にあることを確認してください。以下に説明するコントロールは、しばらくしてから実行します。

検査ステップ	目視検査でエラーが見つかった場合の対処	検査ステップの根拠
1.電気供給およびアダプターの検査		
<p>電源接続ケーブルに損傷がないか、たとえば擦り傷、圧力傷、ボロボロな場所あるいは折れ曲がった箇所がないか？</p>	<p>電気接続箇所の損害に気が付いたらば交換します。</p> <p>ケーブルはMOTOmedのために検査し、認証を受けているため電気接続ケーブルの損傷を修理することは禁じられており、RECK社の純正交換部品と交換してください。RECK社のサービスパートナーにお問い合わせください。</p>	<p>電源ケーブルが損傷すると、損傷した部分に直接接触した場合や損傷した部分がMOTOmedハウジングに接触した場合に感電する危険があります。</p> <p>従って、壊れた電源接続ケーブルは絶対に使用することはできません！</p>
<p>接続ケーブルは次のように取り付けてください。</p> <p>a) 装置と接触していない。</p> <p>b) ケーブルは他の物/装置が上に載って押さえつけられていない。</p> <p>c) クランクに引っかかることがない。</p> <p>d) その他、機械的に損傷をうけないようになっている。</p> <p>e) 誰もそのケーブルにつまづかない。</p>	<p>電線が裸でむき出ているあるいは絶縁の損傷がある場合はそのケーブルは絶対に使わないこと。</p> <p>電源接続ケーブルは、絶対に人がそれにつまづく、あるいはケーブルに機械的にダメージを与えることが無いように取り付けてください。</p>	<p>電源ケーブルが損傷すると、損傷した部分に直接接触した場合や損傷した部分がMOTOmedハウジングに接触した場合に感電する危険があります。</p>
2.装置状態のコントロール		
<p>デバイス、操作ユニット、アクセサリは目に見える損傷がありませんか？</p>	<p>欠陥のある不良部品を修理できるかどうか、または交換が必要かどうかを確認してください。</p>	<p>装置の一部が損傷した場合、その安全機能を保証することができなくなります。操作ユニットに目に見える損傷(ひび割れ、ハウジング部品の破損)がある場合は、操作ユニットを交換する必要があります。</p>
<p>取っ手の表面コーティングに傷がついていませんか？</p>	<p>取っ手はメーカーのサービスに交換させてください。</p>	<p>取っ手のPVCコーティングは、電気に対する追加保護をユーザーに提供します。</p>
<p>装置に汚れが付いていますか？</p>	<p>装置を使用する前に、手入れ指示に従って汚れを除去する必要があります。</p>	<p>汚れを除去することにより病原菌の感染リスクを減らします。</p>

検査ステップ	目視検査でエラーが見つかった場合の対処	検査ステップの根拠
ユーザーが使用する可能性のある付属品はユーザーに適しており、適切ですか？	オプションの腕カフは小さすぎるか大きすぎる場合、これを適切な物と交換してください。付属品の選択と使用では、例えば、皮膚に擦り傷が発生しない様に気をつけてください。	誤って選択されたアクセサリは、色々な場合で、アクセサリが意図した目的を果たさないか、怪我を負う危険があります。従ってトレーニングを開始する前に評価してください。この評価を自分で行うことができないユーザーの場合、介護者が評価を行う必要があります。
車椅子に座ってトレーニングをする場合：トレーニングを始める前に車椅子のブレーキをかけたままですか？	ブレーキをかけ、車椅子が本当に動かないか点検します。	車椅子はトレーニング中に移動してしまわないこと。
電気車椅子をトレーニングの座席として使う場合：車椅子のスイッチは切っており、ブレーキがかかっていますか？	電気車椅子のスイッチを切りブレーキをかけます。そして、車椅子が本当に動かないで安全か点検します。	車椅子はトレーニング中に移動してしまわないこと。
脚のトレーニングだけをする場合、アーム/上半身のトレーナーは後方に回転して固定し、取っ手を握れるようにしますか？	脚トレーニングを開始する前に、腕/上半身のトレーナーを後方に回転します。	取っ手は、脚のトレーニング中にはより良いグリップと、より自由なスペースを提供します。
トレーニングには適切な衣服を着用しますか？	例えば、幅の広いパンツ、長いショール、スカーフ、長めのネックレス、宝飾品、長い髪などペダルの周りに巻き込まれる可能性がある物（特にアームトレーナーを使用する場合は）は使用しないこと。長い髪は腕/上半身トレーニングの使用前に適切にまとめ、あるいは頭カバーで守ります。	体に合っていない衣服は脚シェル/クランクに巻き込まれ、負傷する危険があります。クランクが衣服や髪の毛を巻き込んだ場合は、すぐに赤い停止ボタンまたはオン/オフボタンを押して、クランクの動きが中断したところで、巻き込んだ物をさらに危険をおかすことなく取り外します。

検査ステップ	目視検査でエラーが見つかった場合の対処	検査ステップの根拠
<p>意図する動きが他の物体/ハウジング部品にぶつかることが無い様に、装置を設置し調整してありますか？ 片足トレーニングのみ、または足と腕・上半身の同時トレーニングでは、脚が取っ手とあるいは腕/上半身トレーナーと衝突しないですか？</p>	<p>アームトレーナーの高さ調整は、十分な足スペースがあるように調整する必要があります。足はトレーニング中にアームトレーナーや取っ手と衝突しないこと。 取っ手またはアーム/上半身トレーナーの高さの調整が必要な場合は、取り付けアームの挿入の深さが少なくとも10cmであることを確認することが不可欠です。</p>	<p>負傷する危険が無い様にMOTOmedはトレーニング中に周囲にある他の物体と衝突しない様に設置し調整します。</p>
<p>小さなデバイススタンドは十分に伸ばされていますか？</p>	<p>小さなデバイススタンドを十分に伸ばします。ただし、最低10cmの深さに挿入されていることを遵守する必要があります。</p>	<p>小さなデバイススタンドを伸ばすと、デバイスが前に倒れるのを防ぎます。</p>
<p>すべての調整可能なデバイス部品（モーターコンソール、アーム/上半身トレーナー、デバイススタンド、取っ手など）は、それぞれの締め付けネジとアレンネジでしっかり固定され、すべての固定ネジが締められていますか？</p>	<p>クランプとアレンネジを締め直して、しっかり保持するように確認します。</p>	<p>しっかりと締めていないネジはトレーニング中に装置から外れる危険があります。 トレーニング中に装置の部品が緩んだ場合、トレーニングを直ぐにストップボタンを押して中止し、緩んだ部品を正しく固定します。</p>
3.最善のトレーニング条件であるか点検する		
<p>装置は平な床の上にあり、揺れたり、傾いたり転倒しないですか？</p>	<p>適切な設置場所を選び、トレーニング中に装置が揺れたり、傾斜したり転倒しない様にします。場合によっては、前方の装置スタンド脚を調整してください。</p>	<p>ユーザー/患者に負傷の危険がありますので、装置は揺れたり、傾斜したり、転倒しないこと。</p>
<p>装置がスライドしない様に床が十分な接着性を持っていますか？</p>	<p>滑らない床を選択し、装置と座るシートが安全に固定されていることを確認してください。小さな装置のスタンドには、吸引カップを付属品として提供が可能です。下敷きとして滑り止めマットを付属品として提供が可能です。</p>	<p>MOTOmedは、滑りやすい床(タイル、ラミネート、寄木張りの床など)の上にある場合、位置がずれてくる場合があります。</p>

検査ステップ	目視検査でエラーが見つかった場合の対処	検査ステップの根拠
<p>装置の前で座る車椅子あるいは椅子がトレーニングの最中に傾斜したり、転倒する、あるいは転がって動いてしまわない様に設置してありますか？</p>	<p>重度の硬直（痙攣）や積極的な運動のために車椅子を後方に傾斜させて転がすことがないとは限らない場合は、車椅子傾斜防止装置を使用する必要があります。</p> <p>できればアームの付いた、安定した、座りの良い椅子のみ使用することができます。ブレーキのないローラーが付いた椅子はMOTOmedのトレーニングには使えません。</p>	<p>重症な痙性が足にある場合、ペダルの駆動力によって座席が移動または傾く可能性があります。これは適切な手段で防がないと、負傷する危険があります。</p> <p>ローラーが付いた椅子はトレーニング中にずれ込む可能性があります。</p>
<p>クランク/フットシェルが自由に動くことができますか？トレーニング中にクランクが他の物に触れたり巻きあげたりする危険はありませんか？</p>	<p>後でクランクの回転時にクランクに引っかかったり、クランクの動きを妨げたりする可能性のあるクランクの周りの物をすべて除去してください。</p> <p>例えば、特に頭髮、スカーフあるいは装飾品はクランクに巻き込まれない様に注意してください。</p>	<p>モーターで駆動する回転部分は、特に回転部分に何も引き込まれない様に注意をしてください。ここでは次と同じ注意をしなければなりません。たとえば料理器具あるいはハンドドリルと同様な注意です。</p>
<p>ディスクあるいはクランク半径が両側で同じ調整がされていますか？</p>	<p>左側のクランクは右のクランクの長さ異なる調整がされている場合、クランクの長さを両方同じに調整します。クランクの長さ調整手順については、32ページを参照してください。</p>	<p>異なるクランクの長さでは、有効レバーの長さが異なるため、異なる力がクランクに作用し、非円形運動が生じます。従って、レバーの長さを両側できるだけ同じにしてください。</p>
<p>脚あるいは腕/上半身トレーニングではユーザーの足/腕を安全にフットシェルあるいは前腕シェルに固定していますか？</p>	<p>脚/腕の固定装置を「準備」の章(36ページ)に説明があるように取付ます。</p>	<p>脚/腕はトレーニングの間、間違えてフットシェルから、あるいは前腕シェルから抜けない様にします。</p>

検査ステップ	目視検査でエラーが見つかった場合の対処	検査ステップの根拠
<p>他の医療機器として許可されていない電気機器が患者の手の届く範囲にありますか？</p>	<p>医療機器として認証されていない他のすべての電気機器を、ユーザーの手の届くところ(患者エリア)から除去します。</p>	<p>トレーニング中に患者が他の電源接続式電気機器に触れた場合、感電から保護するのは、MOTOmedの特に高い保護絶縁ではなく、ユーザーが接続する他のデバイスの特性によって決定されます。</p> <p>患者がトレーニング中にMOTOmedの高水準の医療製品安全基準によって効果的に保護されるように、医療機器として認可されていない電気機器はトレーニングするユーザーの手の届く範囲には置かないこと。</p>

24 使用開始

26 使用準備

28 運搬

使用開始

配送スコープ

- MOTOmed muvi
- 操作ユニットは別途梱包されています
- オープンエンドレンチSW15、アレンキーSW4
- MOTOmed muviの使用説明書
- USBスティックの中には操作フィルムがあります。
操作ユニットで呼び出すことができます。
- 電源コード、長さ2.50m

装置を安全にセットアップする | 小さな装置の足を引き出します。
装置の小さいスタンド足を引き出して、装置の安定性を最大限に高めます。

注意



けがや物の破損の危険

小さなデバイスのスタンド足を調整するには、MOTOmedを慎重に持ち上げて、もう一度下に置きます。落とさないでください！

図4.1, 4.2を参照

小さな装置スタンド足①でMOTOmedを持ち上げ、慎重に後ろに傾けま
すMOTOmedを取っ手②の上に置きます。その下にクッションを置いて
保護します。

2つのシリンダーヘッドネジ③を同梱のSW4アレンキー④で開きま
す。これを行うには、サイズSW4のアレンキー④をシリンダーヘッド
のネジ③に挿入し、サイズSW4のアレンキー④を反時計回りに回しま
す。シリンダーヘッドのネジ③を完全に抜き出さないでください。ネ
ジが抜きでないように保護されていません。

小さな装置スタンド足①を約15 cm引き出します。
最小挿入の深さは10 cmであることに注意してください！

小さな装置スタンド足①を所定の位置に固定します。これを行うに
は、SW4アレンキー④をシリンダーヘッドネジ③に挿入し、SW4アレ
ンキー④を時計回りに回します。抵抗を強く感じるまでシリンダーヘ
ッドのネジ③を締め、MOTOmedを直立させます。

MOTOmedが揺れずにしっかりと立つようにするには、小さな装置のス
タンド足①を正しく固定する必要があります！

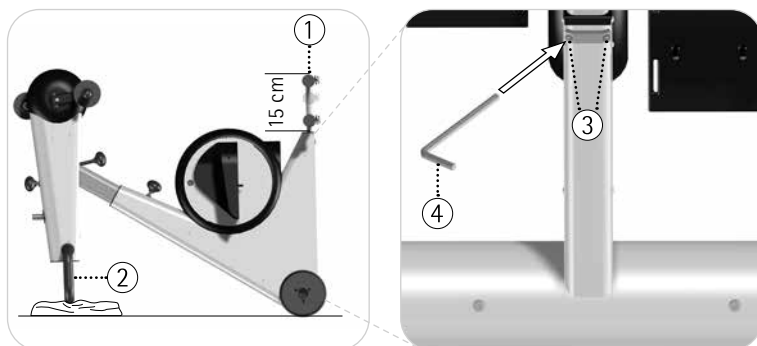


図4.1, 4.2

操作ユニットを取り付ける

注意



物的損害の危険

ケーブルへの損傷およびその結果としての操作ユニットの誤動作を回避するために、指示どおりにコントロールユニットを取り付けてください。

図4.3, 4.4を参照 操作ユニット①を包装から取り出してください。操作ユニット①を六角ナットM22⑤までブラケット②に完全に押し込みます。くぼみ③がケーブル④の上にぴったり合うことを確認してください。ケーブルを圧迫したりよじったりしないでください。

図のように、基本装置に対して垂直に操作ユニット①を配置します。同梱の六角レンチ⑦を事前に組み立てたグラブネジ⑥に挿入します。六角レンチを⑦時計回りに回し、グラブネジ⑥を締めてクランプベース⑧から突き出ないようにします。

モーター制御用の両方のケーブルプラグ⑨を、コントロールユニットの下側にある付属のダブルソケット⑩に差し込みます。

プラグはカチッと音がして所定の位置に収まる必要があります。両方のケーブルプラグ⑨は、任意の順序と配置でダブルソケット⑩に挿入できます。

図4.3, 4.4

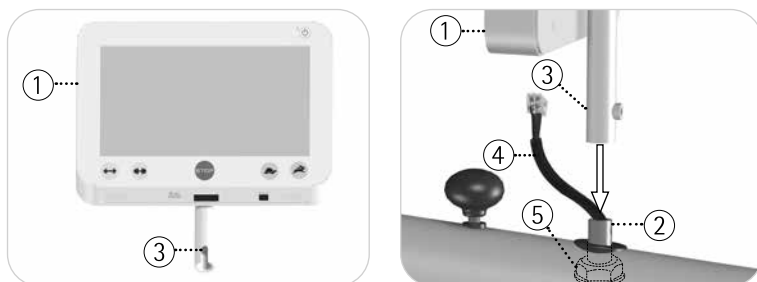
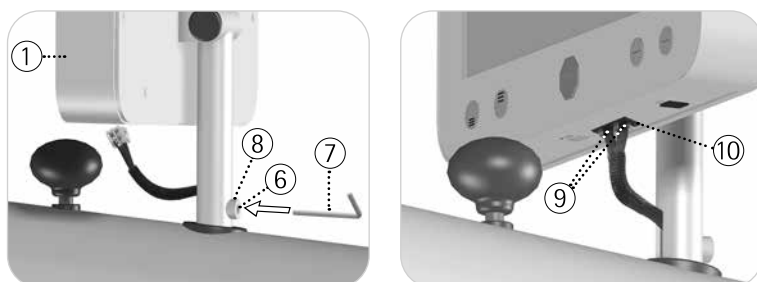


図4.5, 4.6



使用準備

図4.7を参照 まず電源接続ケーブル①をMOTOmedのホイールハブにある IECコネクタ②に接続します。接続が安全であることを確認してください。次に、電源コードの①メインプラグ③を室内のソケットに差し込みます。

メインプラグは自由にアクセスでき、MOTOmedを支障なく抜き差しすることができる必要があります。

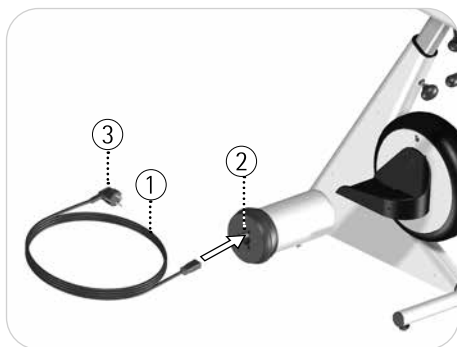


図4.7

MOT0medはこれで使用準備が完了です(スタンバイ)。

操作ユニット上のLED表示①は緑色に発光している時スタンバイ状態であることを意味します。「オン/オフ・ボタン」②を押し、MOT0medのスイッチを入れます。メインスクリーンが表示されます。もう一度オン/オフ・ボタン②を押すとスクリーンはスイッチオフされます。

MOT0medはこれでスリープモードになります。MOT0medを完全に使用準備完了(スタンバイ)の状態にするには、オン/オフボタン②を3秒間押しします。

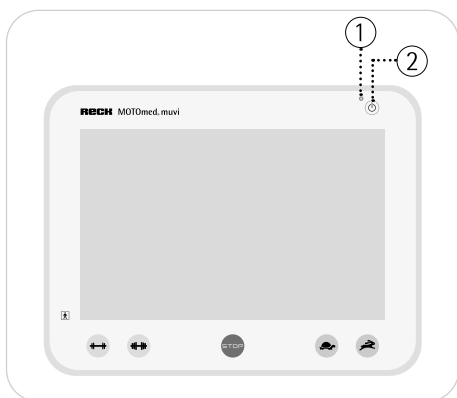


図4.8

エネルギーを節約するにはトレーニングの終了後あるいは最後の入力の15分後にスクリーンセーバーが現れます。30分後にはスクリーンが消え、そのまた15分後にはMOTOmedは使用準備完了(スタンバイ)になります。

MOTOmedは、継続的にスタンバイ状態として設計されています。修理、クリーニングあるいは運搬のために、完全に電気を切りたい場合は、電源プラグを抜いてください。

運搬

MOTOmedは2つの大きな運搬用ロールを備えているため簡単に屋内で運搬することができます。

敏感な床表面への損傷を避けるために、ローラはゴムリングで囲まれています。

26ページ 運搬をする前に電源ケーブルを完全に取り外してください。

運搬するにはMOTOmedの運搬用取っ手を①しっかりと握り 注意深く大きな装置スタンド足を使いできるだけ傾け、MOTOmedが大きな運搬ローラ②で簡単に軽く引っ張られるようにします。

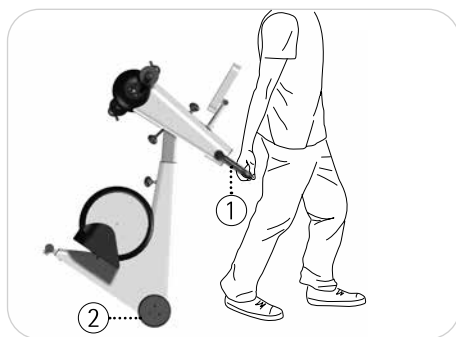


図4.9

MOTOmedが 罫の上を越えなければならない場合、両方の運搬用ローラーが②同時に(平行して)罫の上を超えるようにしてください。

注意



振動による破損の危険

MOTOmedを平らでない床の上(たとえば敷石の上)を運搬しないようにしてください。MOTOmedのエレクトロニック部およびハウジングにダメージが加わる恐れがあります。

長距離や平らでない地上を輸送する場合は、適切な輸送手段(台車など)を使用します。

- 32 序文
- 32 準備
- 32 操作ユニット
- 33 トレーニング運転
 - 33 フリートレーニング
 - 34 搭乗ヘルプ
 - 34 能動的/受動的トレーニング
 - 34 モータースピード
 - 35 抵抗
 - 35 脚トレーナ
 - 35 座席との距離
 - 36 ペダル半径
 - 37 腕/上半身トレーニング
 - 37 腕/上半身トレイナーのスイヴル
 - 38 水平方向調整
 - 38 垂直方向調整

序文

次のページでMOTOmedの操作を詳しく説明します。

準備

大きなスタンド脚を備えたMOTOmedをできるだけ壁のすぐ横に置きます。MOTOmedの前にできるだけ接近して車椅子か安定性のある椅子に座り、トレーニングの時に(フットシェルが体から一番遠くに離れた状態で)膝関節が完全に伸びた状態にならない様になります。

37ページ

警告



負傷の危険!

お使いの車椅子あるいは椅子が傾かない、あるいは動いて機械から離れない様に設置します。

必要に応じ、足を備え付けのマジックテープおよび下腿は脚ガイドのふくらはぎシェルで(ある場合)固定してください。

操作ユニット

MOTOmedの操作ユニット①は最も重要な機能「モータースピード」②/③「抵抗」④/⑤および「ストップ」⑥の固定ボタンが備わっています。

メニューにある他の全ての機能および操作はタッチスクリーン⑦を使い、指の圧力に反応しますから、それで操作します。

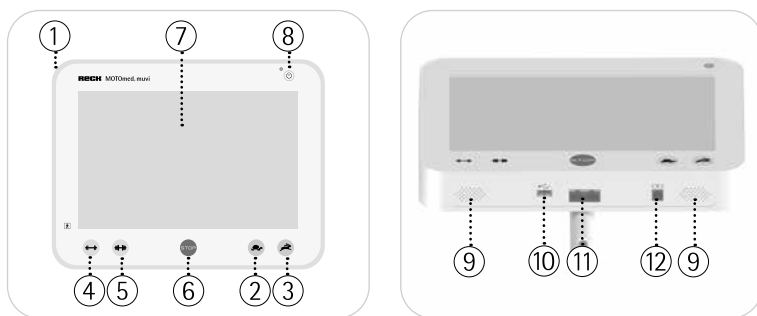


図5.1, 5.2

スピーカー⑨、USBインターフェイス⑩、モーター制御ケーブル用のソケット⑪そしてシリアルインターフェイス⑫は、ハウジングの下側にあります。

図5.2を参照 USBインターフェイス⑩にはメモリースティックを接続することができます。これはトレーニングデータの保存及びソフトウェア更新に使用します。



操作ユニットの機能および設定に関する詳しい情報は同梱の操作フィルムを参照してください。

トレーニング運転

図5.1を参照 「オン/オフ」ボタン⑧を押してMOTOmedのスイッチを入れてください。ホームスクリーンが表示されます。

フリートレーニング



図5.3

搭乗ヘルプ

ホームスクリーンにある操作ボタン **設定ヘルプ** をおしてください。



図5.4

「搭乗ヘルプ」画面の操作ボタン **ペダル前進** を押す、あるいは操作ボタン **ペダル後進** をフットシェルが希望の位置に移動するまで押し続けます。下のペダル位置に脚を簡単に順次挿入できます。

トレーニングを開始するには、ホームスクリーンで希望するトレーナーの操作ボタンを押します。フットシェルとハンドルは設定された受動的な速度で徐々に動き始めます。

能動的/受動的トレーニング

ウォームアップの後、続けてモーターで受動的に運動させることができます(受動トレーニング)、あるいは何時でもアクティブに踏み出すことができます(能動トレーニング)。

モータースピード


図5.1を参照


トレーニング運転では、ボタン②/③を押してモーター回転数を1-60回転/分と変えることができます。

抵抗

図5.1を参照 トレーニング運転では ボタン④/⑤を押して抵抗を0-20に変更することができます。

図5.1を参照 赤のストップ・ボタン⑥でトレーニングを何時でも中止することができます。

制御ボタンを押すことによりホームスクリーンに戻ることができます。

制御ボタンを押すことにより一歩戻ることができます。

脚トレーナー

座席との距離

MOTOmedと座席との距離を、足が常に軽く曲がっているように設定します。できるだけMOTOmedの前に接近して車椅子か安定性のある椅子に座り、トレーニングの時に(フットシェル②が体から一番遠くに離れた状態で)膝関節が完全に伸びた状態にならない様になります。
脚トレーニングの間、取っ手①をしっかり握ります。

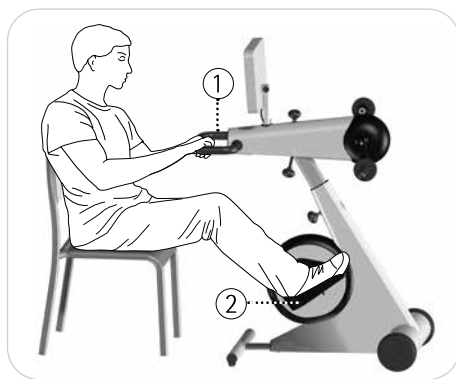


図5.5

ペダル半径

MOTOmedでは2段階のペダル半径設定が可能です：

レベル1: 7cm(スタンダード)

レベル2: 12.5cm

警告



負傷の危険!

ペダル半径はスイッチを切ったMOTOmedで、足が入っていない時のみ調整をすることができます。

注意



MOTOmedの破損の危険!

ツールを使うときは破損をしたり傷をつけない様にしてください。安全フットシェルを落とさないでください。

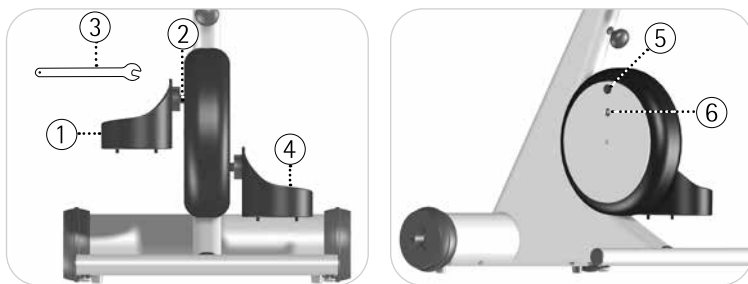


図5.6, 5.7

左側のペダル半径を変更するには、右側の安全フットシェル④を押え、同梱のSW15③オープンエンドレンチで左側の安全フットシェル①のベアリングスクリュー②を開きます。

左の安全フットシェル①を完全に緩めます。左側の安全フットシェル①が落下しないように抑えます。

適切な道具で、それまで使用していない開口部からカバーキャップ⑤を取り外します。左側の安全フットシェル①のベアリングネジを②同梱のスパナSW15③を使用して締めます。右の安全フットシェル④を持ち、抵抗を感じるまでベアリングスクリュー②を締めます。

カバーキャップ⑤を空いた開口部に押し込みます。

この手順を他の安全フットシェル④でも繰り返してください。

注釈：

調和のとれた動きを保証するために、両側で同じペダル半径に調整されていることを、確認してください。

両側でベアリングのネジが②しっかりと締められていることを確認してください。

腕/上半身トレーニング

MOTomedには、アームトレーナーが標準装備されています。

したがって、脚のトレーニングに加えて、腕/上半身のトレーニングも行うことができます。腕/上半身のトレーニングは、脚のトレーニングと同時に、または別々に行うことができます。

腕/上半身トレーナーのスイヴル

別途、腕/上半身トレーニングをする場合、脚をフットシェル①から抜き出します。

腕/上半身トレーナー③の下側にある固定ネジ②を開きます。腕/上半身のトレーナー③を時計回りに180°回転させます。次に、抵抗を感じるまで、再度ロックネジ②を締めます。

操作ユニット④を時計回りに180°回転させます。

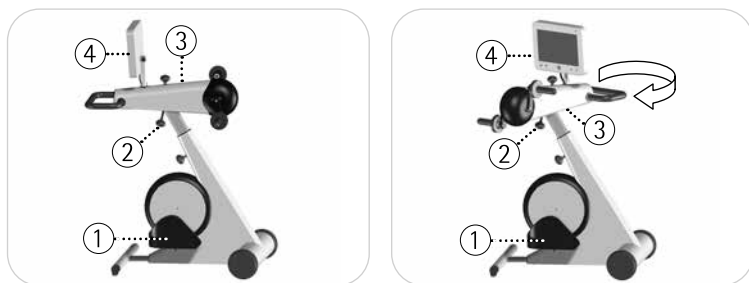


図5.8, 5.9

水平方向調整

脚のトレーニングと同じ方法で、MOTOmedまでのシート距離を選択します。腕を完全に伸ばさず、常に少し曲げげた状態に調整してください。水平調整で腕/上半身トレーナー①とご自分の上半身の距離を調整できます。腕/上半身トレーナー①の上部にある固定ネジ②を開き、希望の位置まで押し引きで調整します。次に、抵抗を感じるまで、再度ロックネジ②を締めます。

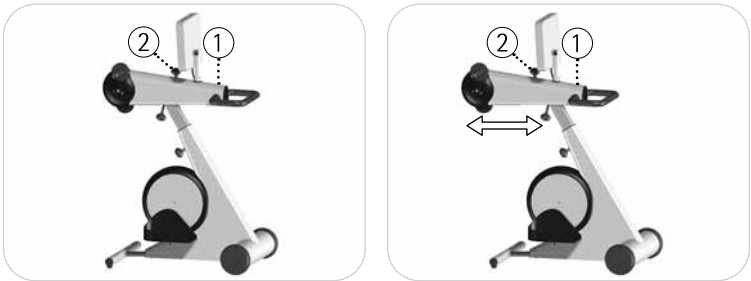


図5.10, 5.11

垂直方向調整

腕/上半身トレーナー①の高さを選択して、腕は胸のところか、やや下にある様に調整します。取り付けアームの固定ネジ②を開き、アーム/上半身トレーナー①を正しい高さに調整します。次に、抵抗を感じるまで、再度ロックネジ②を締めます。



図5.12, 5.13



图5.14

- 42 プラスチックコーティングされた安全フットシェル
注文番号 265.440

- 42 プラスチックコーティングされたふくらはぎシェル付き脚
ガイド
注文番号 303.000
注文番号 186.000 消毒可能な固定バンド付き

- 43 脚クイック固定「QuickFix」
注文番号 265.004

- 44 クイック交換技術を備えたテトラ・ハンドル
注文番号 555.200

- 45 クイック交換技術を備えた垂直ハンドル
注文番号 557.200

- 45 クイック交換技術を備えたErgoハンドル
注文番号 372.200

- 46 クイック交換技術を備えた前腕シェル
注文番号 356.200

- 47 手の固定用手首カフ
注文番号 562.020 サイズ S
注文番号 562.030 サイズ M
注文番号 562.000 サイズ L

- 47 ペダル半径・正確な設定 (アーム 트레이ナー)
注文番号 507.050

プラスチックコーティングされた安全フットシェル

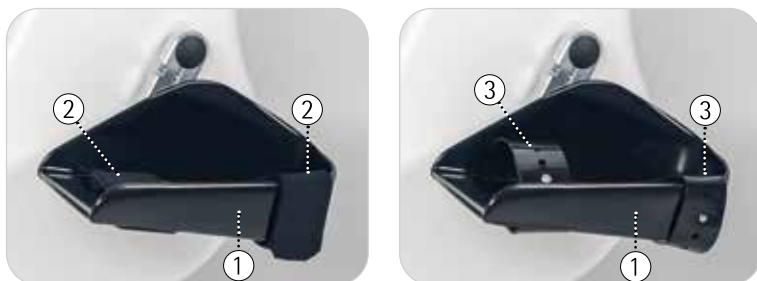


図6.1, 6.2

プラスチックコーティングされた安全フットシェル①は消毒可能なソフトPVCでカバーされています。足首や足を保護するために内側に特に高いセキュリティ外縁を持っています。足を安全かつ簡単に足を固定するために、安全フットシェルには、①マジックテープ②が装備されています。オプションとして提供するプラスチックでコーティングした安全フットシェル①には消毒可能な、固定バンド③が付いています。

43ページ 強い固定が必要な場合、付属装置、脚のクイック固定「QuickFix」が付いた安全フットシェルを装備することができます。

プラスチックコーティングされたふくらはぎシェル付き脚ガイド



図6.3

図6.3を参照 脚ガイド④、ふくらはぎシェル①付き、は簡単に着用できるように形作られています。フレキシブルな形により、ふくらはぎシェル①は下腿に合わせるすることができます。

最適なガイドと脚のサポートのために、ふくらはぎシェル①は下腿にフィットしていなければなりません。

つまみネジ②を開き、脚ガイド④の高さ調整を行います。つまみネジ②を選んだポジションでまた硬く締めます。

注意 脚ガイド④の最低差し込みの深さ、3cmに注意してください。



まず、安全フットシェル⑤に脚を固定した後、下腿をふくらはぎシェル①で固定します。



時により発生するノイズはつまみネジ②で硬く締めて解決することができます。

殺菌可能な固定バンドを備えたふくらはぎシェルを付けた脚ガイドはオプションとしてあります。

脚クイック固定「QuickFix」



図6.4, 6.5

脚クイック固定装置「QuickFix」を使い自分の足を自分で、そして素早く、安全脚シェルの中に固定し、また再度リリースすることができます。

図6.4, 6.5を参照 »QuickFix«を開きながら、操作レバー①を方に押し、あるいは引き上げて足を自由にします。
手でスポンジの패드②패드が程よいプレッシャーを脚に与えるくらいまで下方に押し下げます。
패드ブラケット③は短い間隔で聴覚的にラッチし、これらのラッチステップごとに確実に固定されます。
トレーニング終了後、»QuickFix«を操作レバーを①下方に押し、あるいは上方に引き揚げて開きます。

クイック交換技術を備えたテトラ・ハンドル

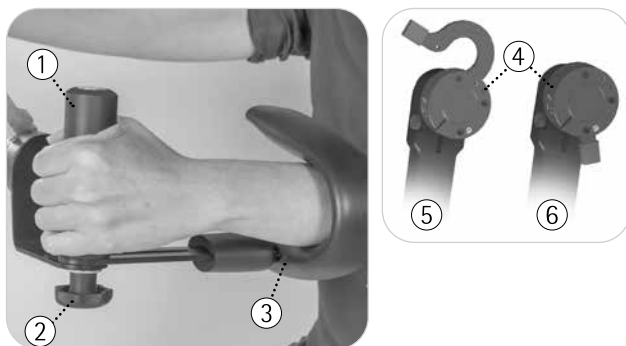


図6.6

テトラ・ハンドル①でアームを簡単に自分で挿入することができます。前腕サポート③は調整ネジ②でフレキシブルに調整することができます。

クイック交換技術④により、ツールなしでハンドルの交換ができます。留め金ト⑤を開きハンドルを取り外してください。使用したいハンドルを差し込み、留め金ト⑥を再び閉めます。

クイック交換技術を備えた垂直ハンドル

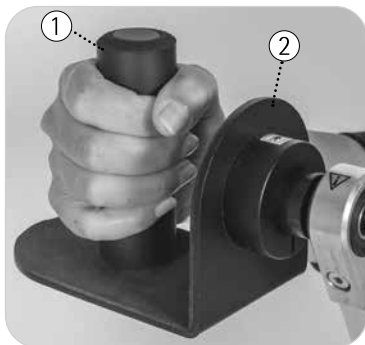


図6.7

垂直ハンドルは①多少握ることができてもハンドレストが必要なユーザーに適しています。垂直ハンドルは内側に滑り止め②を装備しています。

図6.6を参照 クイック交換技術の仕組みについては、テトラハンドルをご覧ください。

クイック交換技術を備えたErgoハンドル



図6.8

Ergoハンドル①は、改造せずに個々の手の位置設定を可能にします。ユーザーは、3つの取っ手の位置から選択できます。

図6.6を参照 クイック交換技術の仕組みについては、テトラハンドルをご覧ください。

クイック交換技術を備えた前腕シェル



Abb. 6.9

前腕シェル①で非常に麻痺がひどい場合、腕を取り付けて固定することができます。前腕の側方補整運動のために、前腕は前腕シェルに水平に旋回可能に取り付けられます。

前腕シェル①の下側にあるつまみネジ②を開き、クロスハンドル③を希望の方向に調整します。つまみネジ②を選択したポジションで再び硬く締めます。

図6.6を参照 クイック交換技術の仕組みについては、テトラハンドルをご覧ください。

注意



クロスハンドル③の差し込みの深さは最低2.5 cm、に注意してください。

注意



ペダル軸に触れることがないように、手(および指)が固定されていることを確認してください。前腕シェルに載せて固定した腕と手のトレーニングは、監督下でのみ行うことができます。

手の固定用手首カフ

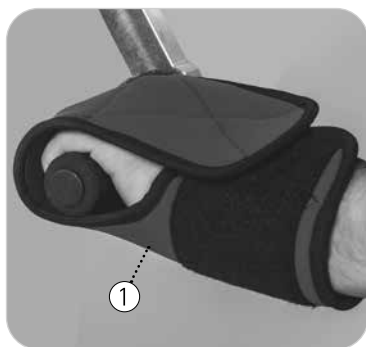


図6.10

手の固定用手首カフ①で、麻痺している(弱い)手を色々なハンドルに容易かつ迅速に固定することが可能です。

6

ペダル半径・正確な設定 (アームトレイナー)

ペダル半径の正確な設定で動きの範囲、すなわちペダル半径を正確に設定することができます。ペダル半径は両側を4段式(5.0/7.5/10.0/12.5 cm)で、あるいは継続的に段階なく設定することができます。

警告



負傷の危険!

スイッチを切ったMOTOmedでのみペダル半径の調整をすることができます。

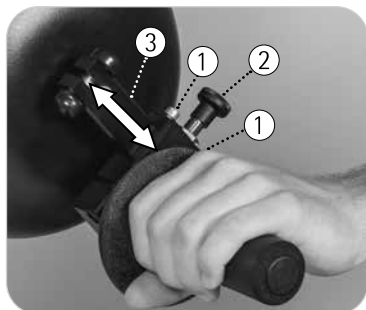


図6.11

図6.11を参照 ペダル半径を変更するには、同梱の六角スパナSW4で、六角ソケット
①ネジを緩めます。
ロックボタン②を引き上げ、ペダル軸③上でハンドルを動かして4段階
で正確に調整することができます。
無段階調整の場合は、2本のアレンネジ①を使い、ペダル軸③の任意
の位置にハンドルを固定できます。

もう一方のハンドルでもこの手順を繰り返してください。

注釈：

調和のとれた動きを保証するために、両側で同じペダル半径に調整さ
れていることを、確認してください。



ロックボタンのロックピンとペダル軸の間の遊びが原因で起る可能性
があるノイズを両方の六角ソケットボルト①を締めることで、修正す
ることができます。六角ソケットボルトは定期的に締め直します。

ページ トラブルシューティング

- 50 トラブルシューティングの安全要件
- 50 MOTOMedが均一に回転しない
- 50 MOTOMedが稼働しないあるいは
操作ユニットが反応しない
- 51 MOTOMedへの電磁の影響による障害の可能性

トラブルシューティング時の安全要件



MOTOmedへの介入は、承認された専門職員のみ行えます。
メンテナンス作業を行う前には、安全上の理由から、電源プラグをソケットから外すことが大事です。

59ページ 修理できない障害が生じ、それが以下に記載されていない場合、または不明な点がある場合は、RECK社サービスセンターまたは認定パートナーにお問い合わせください。

MOTOmedが均一に回転しない

次の点を点検してください。

1. ペダルの半径がMOTOmedの両側で同じレベルに設定されていますか？
2. ペダルの半径がご自分の可動性と比べて設定レベルが高すぎませんか？そうすると、ユーザーに起因する不均一な回転が起こります。
3. ユーザーのポジションと姿勢
MOTOmedに対し、一直線に良い姿勢で座ります。膝が踏んだ時完全に伸びない状態の距離に設定します。
4. 半身が麻痺している場合、身体の状態が異なるため、不均一な円形に(特に低い制動抵抗で)走行する可能性があります。
5. 脚を入れなくても不均一な走行が起こる場合、専門家による駆動ベルトの検査を行う必要があります。

MOTOmedが走行しないあるいは操作ユニットが反応しない

26ページ 操作ユニットが正しく取り付けられているか、そしてモーターのケーブルが正しく差し込まれているかチェックしてください。電源コードが電源コンセントに正しく差し込まれ、IECコネクターがMOTOmedのホイールハブに差し込まれていることを確認してください。また、メインソケットの機能をチェックしてください(別の電気装置を差し込んで)。

電磁のMOTOmedへの影響による障害の可能性

可能な影響	修正対処
トレーニングを中断する	トレーニングを再スタートする
MOTOmedがオフになる	MOTOmedを再度オンにする
選択したトレーニングがそれ以外のトレーニングとしてオンになる。	トレーニングを終了し、希望のトレーニングを再スタートする
トレーニング速度が変化する	対処の必要なし、障害が終わった後、自動的に回復します
エラーシグナルの音が鳴る	対処の必要なし、障害が終わった後、自動的に回復します
ビジュアル・エラーシグナルが出る	対処の必要なし、障害が終わった後、自動的に回復する

クリーニング、メンテナンス、再使用、リサイクリング

クリーニング

警告



電気による負傷の危険!

クリーニング時と消毒時は、安全のために、MOTOmed 運動セラピー装置の電源 プラグを抜きます!

MOTOmedは拭き消毒方式で、特に適した拭き布を使ってのみクリーニングまたは消毒することができます。

注意



MOTOmedの破損の危険!

スプレー式消毒あるいは消毒シャワーを使うことは、敏感なエレクトロニック部品そしてパッキンの付いていない可動部品があるため、使うことはできません。

基本的には特別な洗浄間隔の規定はありません。

洗浄は衛生上の必要性に応じて行います。

多くのユーザーがMOTOmedを使うエリアでは、使用パーツおよびその他の、異なるユーザーの体と接触する部品(たとえば開いた傷あるいは褥瘡の危険がある場合)は使用後その度に必ず洗浄し、適切な消毒剤で消毒すること。

強力な、腐食性の溶剤あるいは活性塩素を含む洗剤は使わないこと。クリーニングの際には、特にMOTOmedに取り付けられたスティッカーを破損しない様に注意してください。



推奨する消毒剤はたとえば。

- Microbac forte表面消毒剤
- マスタープロパー多目的クリーナー

メンテナンス

17ページ MOTOMedは定期的なメンテナンス/カスタマーサービスをする必要はありません。トレーニングの前に第3章にあるように目視検査を行います。摩耗した摩耗部品8たとえば脚シェルのライニング、ハンドル、エキスパンダー(は交換する必要があります)。

再使用

17ページ MOTOMedは他の患者の再使用に適しています。そのためには、第3章「目視検査」およびこの章の指示を守ってください

リサイクリング

59ページ MOTOMedは、高品質の全金属構造です。
長い寿命、環境に優しくリサイクルが可能WEEEガイドライン2012/19/EU (電気・電子機器廃棄物)に従って廃棄してください。
質問がございましたらMOTOMedのアドバイザーチームにお問い合わせください。

技術データ、サイン

寸法と 重量(基本装置)

MOTOmedタイプ	寸法 (外寸法、cm min./max.)			重量 (kg)
	長さ	幅	高さ	
腕/上半身トレーナーのmuvi	95/108	60	124/135	51

接続値(電圧、電気周波数)

100-240V~/max. 120VA
47-63 Hz

消費電力

スタンバイで <3 W

使用時の周囲環境条件

温度 +5°C - +40°C
空気湿度 15%-93%相対湿度、結露なし
空気圧 >795 hPa
運転高度 <海面から2000 m

保管および運搬時の周囲環境条件

温度 -25°C - +70°C
湿度 +70°C、相対空気湿度最大93%、
で結露なし
気圧 情報なし

保護タイプ

IP21

分類

保護クラス II, タイプ BF

MPGによる分類

II a

規制(EU) 2017/745に基づく分類MDR分類

IIa、付録VIII、規則9

指令93/42/EECによる分類	IIa、付録 IX、規制 9
GMDN Code	36313
NBOG Code	MD 1108
FDA製品コード	BXB - 動力付きエキササイザー
最大許容ユーザー重量	135 kg

取っ手のコーティングはPVCです。
 メインプラグを引き抜くことにより、MOTOmedの全極切斷が保証されます。

サインの説明 - 一般事項



保護クラス IIの装置



タイプBFの使用パーツ
 使用パーツは、装置をその目的通りに使用した時、ユーザーと接触するため、特別な安全基準に従わなければならない部品です。

次のアプリケーションパーツ（タイプBF）はMOTOmedに取り付けることができ、定期的に検査する必要があります。

- 操作ユニット
- 取っ手
- ハンドル
- フットシエル
- ふくらはぎシエル付き脚ガイド

IP21

MOTOmedは保護タイプIP21対応:
固体異物や垂直滴下する液体の侵入から保護されています。



取扱説明書に従う。



MOTOmedは医療機器ガイドライン 93/42/EECに準拠。



MOTOmedの製造年(たとえば2021)



Max. weight
51 kg

安全作業負荷を含む質量(キログラム)



正しい廃棄処理をしてください。
WEEE-Reg.-Nr. DE 53019630



装置のシリアル番号



MOTOmedを横から押したり、傾けたり、押したりすることは許可されていません。



MOTOmedに登ったり、立ったままトレーニングすることは許可されていません。

予想耐用年数

予想する耐用年数は、操作環境、使用頻度、および使用タイプによって決まるため、一概に言えません。

したがって、予想する耐用年数は、装置の初回使用から操作可能な状態を維持する期間です。デバイスタイプやアクセサリの技術仕様に他の数字が書かれていない限り、この装置の耐用年数は10年に決められています。

サービス

質問がありましたら、いつでもお問い合わせください。電話によるお客様の質問、アドバイスなどはいつでも歓迎です。喜んで、電話をおかけ直しいたします。必ずお客様の装置番号(SN)をお伝えください。この番号はMOTOmedの大きな装置スタンドの脚に付いている銘板にあります。

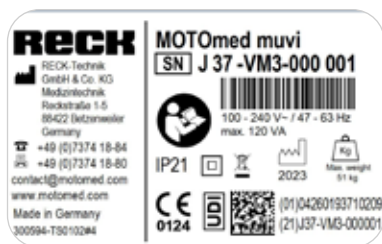


図10.1

あなたの サービスコンタクト、ナショナル

電話 07374 18-84
ファックス 07374 18-80
Eメール service@MOTOmed.com

あるいはフリーダイヤル 0800 668 66 33 におかけください。

あなたの サービスコンタクト、インターナショナル

電話 +49 7374 18-85
ファックス +49 7374 18-480
Eメール service@MOTOmed.com

- 62 メーカー宣言 - 電磁エミッション
- 63 メーカー宣言 - 電磁イミュニティー
- 64 推奨する保護距離

MOTOmed電源接続ケーブルの場合、メーカーはEN 60601-1-2:2016-05に準拠していることを宣言します。

本装置のメーカーが指定する、あるいは同梱の物以外の付属部品および電線の使用は、本製品の電磁エミッションが高くなる、あるいは電磁イミュニティーが低下する、そして機能性を低下させる可能性があります。

メーカー宣言 - 電磁エミッション


MOTOmedは下記の電磁環境において使用する様に作られています。MOTOmedのお客様、あるいはユーザーはこの様な環境において使用することを確認してください。

妨害エミッションの測定	適合	電磁環境ガイドライン
CISPR 11に準拠するRFエミッション	グループ1	MOTOmedはRF(高周波)エネルギーを内部機能のためにのみ使用しています。したがって、RFエミッションは非常に低く、近くにあるエレクトロニクス装置に支障を与える可能性はまずありません。
CISPR 11に準拠するRFエミッション	クラスB	MOTOmedは、居住目的の建物に供給する公的な供給グリッドに直接接続されている、居住を含むすべての施設で使用することが可能。
IEC 61000-3-2に準拠する高調波エミッション	クラスA	
IEC 61000-3-3に準拠する電圧変動エミッション/ちらつき	準拠。	

メーカー宣言 - 電磁干渉イミュニティー-

MOTOmedは下記の電磁環境において使用する様に作られています。MOTOmedのお客様、あるいはユーザーはこの様な環境において使用することを確認してください。

イミュニティー・テスト	IEC 60601の検査レベル	電磁環境ガイドライン
静電気放電(ESD) IEC 61000-4-2	±8 kV 接触放電 ±15 kV 気中放電	床は木材あるいはコンクリートで建設されている、あるいはセラミックタイルで覆っていること。床が合成材料で覆われている場合、相対湿度は少なくとも30%でなければなりません。
高速化と電気障害/バースト IEC 61000-4-4	±2 kV 100 kHz 繰り返し周波数	供給電圧の質は一般的なビジネス環境または病院環境対応のものでなければなりません。
インパルス電圧(サージ) IEC 61000-4-5	±0,5 kV, ±1 kV 電線対電線	供給電圧の質は一般的なビジネス環境または病院環境対応のものでなければなりません。
電圧低下、短時間の中断、および電源電圧変動、IEC 61000-4-11	0% UT; ½ 期間 0, 45, 90, 135, 180, 225, 270 および 315 度において 0% UT; 1 期間 単相: 0度において 70% UT; 25/30 期間 単相: 0度において 0% UT; 250/300 期間	供給電圧の質は一般的なビジネス環境または病院環境対応のものでなければなりません。MOTOmedのユーザーから停電時に運動を継続する要求がある場合は、MOTOmedに中断のない電気供給あるいはバッテリーから電気供給することをお勧めします。
供給周波数(50/60Hz)における磁場 IEC 61000-4-8	30 A/m	グリッド周波数の磁場は、企業や病院環境における典型的な値でなければなりません。
注記: UTは試験レベルを適用する前のAC主電源電圧です。		

イミュニティー・テスト	IEC 60601の検査レベル	電磁環境ガイドライン
IEC 61000-4-6、伝導RF妨害	3V _{eff} 0,15 MHz~80 MHz 6V _{eff} 0,15 MHz~80 MHzのISMおよびアマチュア無線周波数帯において 1 kHzにおいて80%AM	他の装置のすぐ近くで使用することは避けてください。誤動作の原因となる可能性があります。しかしながら、前述の方法で使用する事が不可欠である場合は、本機と他の装置が正しく動作することを確認する必要があります。
IEC 61000-4-3、RF放射障害	10V/m 80 MHz~2,7 GHz 1 kHzにおいて80%AM	固定無線送信機の電界強度は、すべての周波数においてオンサイト ^a の調査ではテストレベルよりも低くなければなりません。 次のシンボルが付いた装置の近くでは、障害が発生する可能性があります。 
<p>注記このガイドラインは必ずしも全てのケースに適用しないかもしれませんが。電磁波の伝播は、建物、物体および人間による吸収および反射によって影響されます。</p> <p>a) 固定送信機の電界強度、例えば、無線電話および陸上移動無線の基地局、アマチュア無線局、AMおよびFMラジオおよびテレビ局は、理論的に正確に予測することはできません。静止式送信機の電磁環境を調べるには、そのサイトにおける調査が検討されるべきです。MOTOmedが使用場所で測定した電界強度が上記の準拠レベルを超える場合は、MOTOmedが指定通りに機能するか観察、確認する必要があります。異常な性能特性が出現する場合、方向を変更するあるいは他の場所にMOTOmedを移動するなどの追加の措置が必要となる場合があります。</p>		

可動式あるいは携帯のRFテレコミュニケーション装置とMOTOmedとの推奨保護距離

MOTOmedは、RF妨害が制御されている電磁環境でのみ使用が可能です。携帯用RF通信機器無線機(アンテナケーブルや外部アンテナなどのアクセサリを含む)は、メーカーが指定したMOTOmedの部品や配線から30 cm (12インチ)以上離して使用してください。そうしないと、装置のパフォーマンスが低下する可能性があります。

索引

- クイック交換技術 41, 44, 45, 46
- クリーニング 53
- サービス 59
- サインの説明 56
- スタンバイ 26
- スタンバイモード/運転 26
- テトラハンドル 44, 45, 46
- トレーニングの準備 32
- プラスチックコーティングされた安全フットシェル 42
- プラスチックコーティングされたふくらはぎシェル付き脚ガイド 42
- フリートレーニング 33
- ペダル半径 36
- まえがき 1
- メンテナンス 54
- ユーザー体重 56
- リサイクリング 54
- 付属部品 41
- 使用目的 6
- 使用目的にあった使用 7
- 使用開始 24
- 保護距離 64
- 免責事項 8
- 再使用 54
- 前腕シェル 46
- 区分 55
- 医療機器クラス 55
- 取っ手 1, 2
- 周囲条件 55
- 垂直ハンドル 45
- 垂直方向調整 38
- 安全対策 11
- 寸法 55
- 技術データ 55
- 担当者 59
- 接続値 55
- 推奨する保護距離 64
- 搭乗ヘルプ 34
- 操作ユニット 24, 25, 27, 32
- 殺菌 53
- 水平方向調整 38
- 消費電力 55
- 症状 8
- 目視検査 17
- 禁忌 9
- 脚トレーナ 35
- 腕/上半身トレーニング 37
- 自己操作が可能なフットブラケット 42
- 装置番号 59
- 製造年 57
- 負の副作用 5
- 足ガイド »TrainCare« 26, 33
- 運搬 28
- 運搬用ロール 1, 2, 28
- 重量 55
- 重量制限 56
- 銘板 59

障害の修理 41, 49
障害耐性 63
電磁免疫テイナー 63
電磁エミッション 62
安全フットシエル 42
CEマーク 57
Ergoハンドル 45
患者ターゲットグループ 7
脚クイック固定»QuickFix« 43
臨床的効用 9
»QuickFix« 43, 44
重大な事柄 10

2019年製造製品から有効

100.020.435 ja 20231218

技術革新による技術的変更がある可能性があります。

RECK社の書面による許可なく、全体または一部の複製は許されません。

RECK

RECK-Technik GmbH & Co. KG

Reckstraße 1-5, 88422 Betzenweiler, GERMANY

電話 +49 7374 18-85, ファックス +49 7374 18-480

info@MOTOmed.com, www.MOTOmed.com

